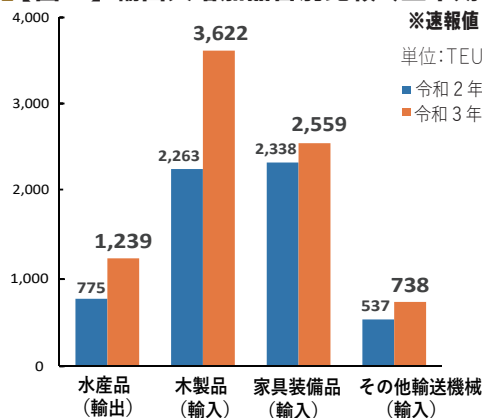
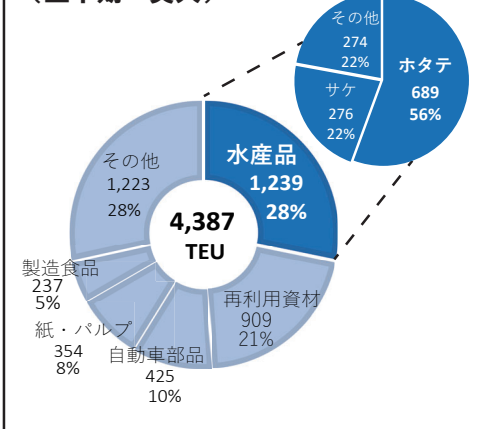


令和3年外貿コンテナ取扱個数概況

【図1】輸出入増加品目別比較（上半期）※速報値



【図2】令和3年輸出品目構成（上半期・実入）※速報値 単位:TEU



石狩湾新港における上半期令和3年1月から6月までの外貿コンテナ取扱個数（速報値）は、輸出入合計が2万9504 TEUであり、前年同期の2万7996 TEUと比較して約5%増加しています。

増加している品目は、輸出では水産品、輸入では木製品、建築資材などや家具装備品が増加しています。また、7月以降の取扱個数については、前年並みの見通しとなっています。

前年同期比約160%

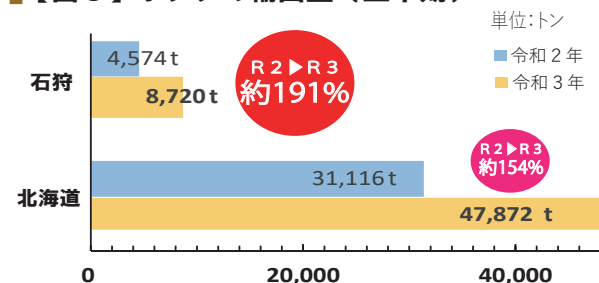
品は、輸出の取扱個数の約3割

【図2】を占め、その内訳としては、ホタテやサケが多く、その他カレイなどとなっています。特にホタテは約6割を占めています。

また、貿易統計から北海道全体と石狩のホタテの輸出货量を比較すると、北海道全体では、前年の約154%に対し、石狩はそれを上回る約191%となっています【図3】。

水産品の輸出が増加

【図3】ホタテの輸出货量（上半期）

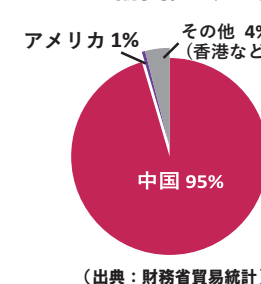


北海道産ホタテが人気

北海道産のホタテは、9割以上が中国に向けて輸出されています【図4】。

新聞などによると、中国では、ホタテは寿司や刺身など

【図4】北海道からのホタテ輸出先（上半期）



に北海道産は大ぶりな上、食感が良いことから評価が高く、さらにコロナ禍により日本への旅行が難しい状況が重なり、中国での需要が伸びていると報道され、今後も北海道からの輸出が伸びると予想されています。

和食を中心に人気があり、特に、大きく増加した水産品は、輸出では水産品、輸入では木製品、建築資材などや家具装備品が増加しています。また、7月以降の取扱個数については、前年並みの見通しとなっています。

品は、輸出の取扱個数の約3割【図2】を占め、その内訳としては、ホタテやサケが多く、その他カレイなどとなっています。特にホタテは約6割を占めています。

また、貿易統計から北海道全体と石狩のホタテの輸出货量を比較すると、北海道全体では、前年の約154%に対し、石狩はそれを上回る約191%となっています【図3】。

新聞などによると、中国では、ホタテは寿司や刺身など

「食」のグローバル拠点

また、石狩におけるホタテの輸出の伸びは、まず、背後地域に道内最大級の約30万トン（営業用冷凍冷蔵倉庫）の庫容量を誇る「冷凍冷蔵倉庫群」との関係が強く、これらの倉庫は消費地の札幌が近接し、肉、水産品や加工食品などを多く取り扱っていることから、札幌圏の胃袋を支える役割も担っており、近年においても立地が進み庫容量が増加しています。

次に、地域に隣接する本港は冷凍冷蔵コンテナ用コンセントが242口と充実し、また定温機能を備えた小口貨物積替施設を整備しており、輸出入に適

「動物検疫港」として指定され、肉などの輸入に対応してきました。新たに本年6月からは、取り扱える指定検疫物として「骨」などが加わり、荷揚げ可能な品目が増えました。

本港では、利用される方のニーズに応えるよう取り組んでおり、その一つとして本年7月には、コンテナ荷さばきの効率化を図るためのシステムを導入し、運用を開始しています。これにより、受付や積み卸しがスムーズになることから、これまで以上にリードタイム短縮に繋がると期待しています。

このように「保管」と「輸送」の機能に加え、地理的条件が融合した地域特性が、ホタテの輸出に繋がっているものと考えられます。

今後も、冷凍冷蔵倉庫への民間投資が続くものと想定されることから、本港においても水産品をはじめとした冷凍冷蔵コンテナの取り扱いが増加すると期待しています。

継ぐ、続ける

PR七転び八起き

これまで石狩湾新港管理組合では、様々な機会ですり狩湾新港をPRするため取り組んできました。

その中でも毎年2月に開催している東京説明会は、平成9年から22年間続けてきましたが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、大変残念



▲ 展示会でのPRブース

が評価され、「海をきれいにするための一般協力者部門」において、国土交通大臣から表彰されました。この活動は、平成10年から「クリーン作戦」と命名

毎年、国土交通省では、多年にわたり海事関係事業などに貢献された方々を「海の日」に表彰しています。

本年は、石狩湾新港地域の開発促進、発展に寄与することを目的に、立地企業の交流事業等を推進する石狩湾新港企業団地連絡協議会が、地域の清掃活動を長く続けて行ってきたこと



▲前列一番右が阿部仁会長

仁会長は、「クリーン作戦は、この地域の人々の働きやすい環境づくりに欠かせないものとして、今後も関係機関などのご協力のもと実施していく」と力強く述べられました。

今後とも港とともに地域全体がきれいになることが期待されています。

ながら参加者の安全確保のため中止としました。

また、平成22年からは首都圏などにおいて本港の認知度を向上させるため、来場者が多く期待される展示会に、小樽市や石狩市などの関係機関と連携し出展しています。本年3月には愛知、6月には大阪での展示会に出展しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大状況が日々目まぐるしく変化する中、やむを得ず無人でのブース対応とするなど、コロナ禍における集客という難しい問題に直面したところです。

一方、10月に東京で開催された展示会では、緊急事態宣言解除後ということもあり、3日間1万7841名が来場し、当ブースにも多くのお客様がお越しになり情報交換させていただきました。

皆様からのご意見やご要望などは、今後の使いやすいつくりに向けて参考になりました。ありがとうございました。

今後とも展示会に出展を続けていきますので、ブースを見かけた際には是非お立ち寄りください。

次世代を担う子どもたちへ

当組合では、港湾や物流に少しでも興味を持ってもらうことを目的として、主に小中学生の港見学の対応を行っています。見学の際には、スーパ

やコンビニで日常目にする商品が、生産地からどのように



▲コンテナ内を見学

内小学校の児童が、社会科見学で花畔ふ頭のコンテナヤードを見学しました。

当日は、コンテナの内部やリースタッカーによる荷役作業など、普段あまり目にするところがない、大型の荷役機械の大切さを伝えました。その迫力ある作業を間近で見た子どもたち



▲リーチスタッカーの実演

ちは息をのみ、「コンテナを軽々と持ち上げていてすごい」と感動した様子でした。

同小学校は平成23年から毎年、本港の見学を継続しています。

最近、中高生の見学会では、「以前に石狩湾新港を見学した」という声を聞くこともあり、本港が子どもたちの記憶に残っていることを嬉しく思っています。

本港を見学した子どもたちの中から、将来、港で活躍する姿が見られることを期待しています。

新造船入港

～石狩湾新港振興会などによる記念訪船実施～

令和3年10月6日、LPG（液化石油ガス）を積載した新造船「第7徳誉丸」が本港に初入港し、中央ふ頭に着岸しました。あわせて今後も暮らしを支えるエネルギーを供給する重要な役割を担う同船の初入港の記念訪船を実施し、笹本船長に記念品や花束を贈呈しました。

LPGは平成9年より青森港から輸送しており、主に札幌圏のエネルギーとして供給されています。特に北海道は冬季に多くのエネルギーが消費されるため、供給が止まることがないよう、気候に左右されないスムーズな入出港及び荷役作業が繰り返されています。

